

# 令和6年度 栃木県 英語教育改善プラン

## 目標

### 言語活動の充実及び学習評価改善による児童の資質・能力の着実な育成

○「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標に基づく達成状況の把握（R5：68.1%⇒R6：70%）

○「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の公表（R5：38.6%⇒R6：40%）

## 1. 目標に対する現状

### 改善が進んだ点

①「授業における、児童の言語活動状況」の割合が増加した。  
(R4:92.3%⇒R5:94.8%)

②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の達成状況の把握の割合が増加した。  
(R4:62.0%⇒R5:68.1%)

### 未だ改善が必要な点

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の達成状況の把握については、引続き改善の余地がある。  
(R4:62.0%⇒R5:68.1%)

②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の公表については、引き続き改善の余地がある。  
(R4:29.3%⇒R5:38.6%)

## 2. 要因分析

①・②  
教育課程研究集会や研修等で、言語活動を通して指導することの重要性や指導と評価の一体化について周知を図ったことで、意識して指導している教員が増加したと考えられる。

①・②  
スピーキングテストについては、実施率は97.8%と高い割合であったが、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定している割合が78.8%である。

このことから、学習到達目標を基にした単元計画や評価基準を作成せずにスピーキングテストの評価をしていることが考えられる。今後は、学習到達目標を基に作成した評価基準表を児童と共有し、実践している事例を周知することで改善を図っていく。

## 3. 目標を達成するための施策・事業

①・②各市町での取組調査の実施  
・ 今後の取組の充実に向け、各市町における英語教育に係る取組や課題等について、調査を実施する。

①・②「英語教育応援チーム派遣事業」の実施

(1) 目的

英語の授業づくり等を支援する応援チームを派遣し、言語活動やパフォーマンステストの工夫改善、学習評価の充実に向けた取組を支援することで、教員の指導力及び小・中学校段階における児童生徒の英語力の向上を図る。

(2) 内容

指導主事複数名でチームを構成し、要請希望の市町教育委員会または学校等について、年間を通して継続的に関わり、総合的かつ具体的に支援する。

①・②教育課程研究集会等の実施

・ 教育課程研修集会や基本研修、学校訪問等の機会を通して、学習到達目標の設定や把握について周知したり、指導と評価の一体化について共有を図る。

①・②教員支援サイトの開設

・ 各事業を通して得られた県内の好事例等については、Webサイトに掲載し、授業改善に向けた具体的なイメージの共有を図る。

# 令和6年度 栃木県 英語教育改善プラン

## 目標

### 言語活動の充実及び学習評価改善による生徒の資質・能力の着実な育成

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（R5：40.1%⇒R6：45%）

○授業における、生徒の英語による言語活動の割合（R5：77.5%⇒R6：85%）

## 1. 目標に対する現状

### 改善が進んだ点

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定をしている学校の割合が増加。

（R4:92.9%⇒R5:98.0%）

②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を公表の割合が増加。

（R4:55.5%⇒R5:61.8%）

### 未だ改善が必要な点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が減少しており、目標数値に達していない。

（R4:42.5%⇒R5:40.1%）

②「授業における、生徒の英語による言語活動の割合」が減少した。

（R4:78.5%⇒R5:77.5%）

③R5全国学調の結果から、「話すこと」を実施しているか、という問いに対する生徒の肯定的回答率が他領域より低かった。

話すこと「やりとり」：69.7%

話すこと「発表」：77.3%

## 2. 要因分析

### ①・②

パフォーマンステストを実施する割合が高いことや、教育課程研究集会や研修等において周知したことで増加したと考えられる。

### ①・②・③

①の生徒の英語力向上が図られていないことについては、②の結果から、生徒の言語活動の割合の低下が要因の一つであると考えられる。特に、③の結果から、「話すこと」については、「書くこと」と関連付けるなど、更なる言語活動の充実が必要となる。

また、教員対象研修のアンケート等から、「パフォーマンステストの評価方法に自信がない」、「具体例を教えて欲しい」という声が多かった。そのため、適切なパフォーマンス課題の設定、評価基準の作成、主体性の評価等のモデルを示すことが求められる。

## 3. 目標を達成するための施策・事業

### ①・②・③各市町の実施

・今後の取組の充実に向け、各市町における英語教育に係る取組や課題等について、調査を実施する。

### ①・②・③「英語教育応援チーム派遣事業」の実施

#### (1) 目的

英語の授業づくり等を支援する応援チームを派遣し、言語活動の質の向上やパフォーマンステストの工夫改善、学習評価の充実に向けた取組を支援することで、教員の指導力及び小・中学校段階における児童生徒の英語力の向上を図る。

#### (2) 内容

指導主事複数名でチームを構成し、要請希望の市町教育委員会または学校等について、年間を通して継続的に関わり、総合的かつ具体的に支援する。

### ①・②教育課程研究集会等の実施

・教育課程研修集会や基本研修、学校訪問等の機会を通して、指導と評価の一体化について共有を図る。  
・ALTを対象としたティームティーチング授業力向上研修を通して、パフォーマンステストの評価改善を図る。

### ①・②教員支援サイトの開設

・各事業を通して得られた県内の好事例等については、Webサイトに掲載し、授業改善に向けた具体的なイメージの共有を図る。

# 令和6年度 栃木県 英語教育改善プラン

## 言語活動の充実及び学習評価改善による生徒の資質・能力の着実な育成。

### 目標

- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合  
(R5 : A2以上 50.2%、B1以上 18.9% ⇒R6 : A2以上 52%、B1以上 21%)
- 授業の50%以上の時間において生徒が英語による言語活動を行っている割合 (R5 : 34.6% ⇒R6 : 40%)

### 1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が増加した。  
(R4:48.2%⇒R5:50.2%)
- ②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を活用して生徒の英語力の達成状況を把握している学校の割合が増加した。  
(R4:34.3%⇒R5:44.9%)

未だ改善が必要な点

- ①授業の50%以上の時間において生徒が英語による言語活動を行っている割合について、改善が進まなかった。(R4:33.3%⇒R5:34.6%)  
また、言語活動に占める「読むこと」の割合が高く、「話すこと」及び「書くこと」の言語活動が不十分である。併せて、「話すこと」及び「書くこと」の言語活動におけるICTの活用が少ない。
- ②スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合は、着実に増加しているものの、昨年度の全国平均値(48.6%)を大きく下回っていることから、引き続き改善が必要である。  
(R4:29.9%⇒R5:36.7%)

### 2. 要因分析

- ①スピーキングテストとライティングテストの両方または片方を実施した学校数の増加が、英語の発信力及び英語力全体の向上につながったと考えられる。
- ②新課程の学年が増え、パフォーマンステストや観点別評価の改善に取り組む学校が増えたことや、悉皆研修において、「CAN-DOリスト」を踏まえた指導と評価の実践について研究協議を行ったこと等が増加につながったと考えられる。
- ①言語活動を中心にした授業や「話すこと」「書くこと」の言語活動の具体的な実践イメージが共有されていないことが一因と考えられる。特に、「読むこと」から「話すこと」「書くこと」への技能統合的な言語活動や、ICTを効果的に活用した「話すこと」「書くこと」の言語活動の例示が求められる。
- ②教員対象のアンケート等から、「パフォーマンステストの評価方法に自信がない」「具体例を教えて欲しい」という声が多かった。そのため、適切なパフォーマンス課題の設定、評価基準の作成、主体性の評価等のモデルを示すことが求められる。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

- ①・②指導主事による学校訪問の実施
  - ・新規採用教員のいる学校への計画訪問及び学校からの要請に基づく訪問において、授業見学及び研究協議を実施するとともに、英語教育実施状況調査の結果から見える訪問校の英語教育の課題について外国語科担当教員全体と協議し、改善に向けた指導助言を行う。
  - ・指導助言においては、言語活動を中心とした授業実践及びパフォーマンステストの実施・質的改善に向けて、学校の現状を聞きとり、年間指導計画、単元の指導計画、各授業の進め方等について、他校の好事例等を示しながら具体的な改善策の作成を促す。
  - ・後日、改善の状況を聞き取り指導助言を行う等、継続的な支援を行う。
- ①・②教育課程研究協議会外国語部会の実施
  - ・本県における英語教育の課題を共有し、その解決に向けた方策や具体的な授業実践について協議する。その際、県内の好事例について、実際に使用されたワークシートやパフォーマンス課題、評価基準等を共有することにより、各学校における即時の実践と持続可能な指導の改善を図る。
- ①・②教員支援サイトの開設
  - ・言語活動やパフォーマンステスト等の好事例をWebサイトに掲載し、指導と評価の改善に向けた具体的なイメージの共有を図る。

栃木県教育委員会

| 校種   | 指標内容                                | 2023       |      | 2024  |     | 2025 |     | 2026 |     | 2027 |     |
|------|-------------------------------------|------------|------|-------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|
|      |                                     | 目標値        | 達成値  | 目標値   | 達成値 | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 |
| 高等学校 | ①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）     | 50         | 50.2 | 52    |     | 54   |     | 57   |     | 60   |     |
|      | ①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）     | 25         | 18.9 | 21    |     | 24   |     | 27   |     | 30   |     |
|      | ②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）          | 70         | 34.6 | 40    |     | 50   |     | 60   |     | 70   |     |
|      | ③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）   | 70         | 36.7 | 40    |     | 50   |     | 60   |     | 70   |     |
|      | ④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況        | 設定（％）      | 100  | 100.0 | 100 | 100  |     | 100  |     | 100  |     |
|      |                                     | 公表（％）      | 70   | 39.1  | 50  | 60   |     | 70   |     | 80   |     |
|      |                                     | 達成状況の把握（％） | 70   | 44.9  | 50  | 60   |     | 70   |     | 80   |     |
|      | ⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％） | 75         | 70.7 | 74    |     | 76   |     | 78   |     | 80   |     |
|      | ⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）             | 50         | 26.9 | 40    |     | 50   |     | 60   |     | 70   |     |

| 校種  | 指標内容                                | 2023       |      | 2024 |     | 2025 |     | 2026 |     | 2027 |     |
|-----|-------------------------------------|------------|------|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|
|     |                                     | 目標値        | 達成値  | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 |
| 中学校 | ①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）     | 50         | 40.1 | 45   |     | 50   |     | 55   |     | 60   |     |
|     | ②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）          | 100        | 77.5 | 85   |     | 90   |     | 95   |     | 100  |     |
|     | ③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）   | 100        | 87.2 | 90   |     | 95   |     | 100  |     | 100  |     |
|     | ④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況        | 設定（％）      | 100  | 98   | 100 | 100  |     | 100  |     | 100  |     |
|     |                                     | 公表（％）      | 80   | 61.8 | 65  | 70   |     | 75   |     | 80   |     |
|     |                                     | 達成状況の把握（％） | 100  | 72.4 | 80  | 85   |     | 100  |     | 100  |     |
|     | ⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％） | 50         | 38.7 | 42   |     | 45   |     | 48   |     | 50   |     |
|     | ⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）             | 100        | 77.1 | 80   |     | 85   |     | 90   |     | 100  |     |

| 校種  | 指標内容                        | 2023       |     | 2024 |     | 2025 |     | 2026 |     | 2027 |     |
|-----|-----------------------------|------------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|
|     |                             | 目標値        | 達成値 | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 |
| 小学校 | 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況 | 設定（％）      | 100 | 78.8 | 80  | 90   |     | 100  |     | 100  |     |
|     |                             | 公表（％）      | 50  | 38.6 | 40  | 45   |     | 50   |     | 50   |     |
|     |                             | 達成状況の把握（％） | 80  | 68.1 | 70  | 75   |     | 80   |     | 80   |     |